

もも栽培情報第5号

令和2年6月29日
富山県高岡農林振興センター

■ 1 生育概況

現在、硬核期は終了しています。また、魚津市の果樹研究センターの「あかつき」の収穫始期は、7月24日頃と予想されています。

6月26日（満開79日後）現在の果実横径は51.9mmで、前年（54.6mm）、平年（55.1mm）に比べ小さくなっています。

■ 2 病害虫防除

6月25日新潟地方気象台発表の「北陸地方 1か月予報」によると、向こう1か月は平年並みに曇りや雨の日が多いと予想されています。灰星病等の果実腐敗病に注意し、丁寧な薬剤防除を行なって下さい。

時期	対象病害虫	散布薬剤名	希釈倍数	100L当 必要薬剤 (g, cc)	10a当 散布量	防除 実施日 (自己記入)
7/3 ~5	灰星病 シクイムシ類、ハマキムシ類、モモハモグリガ	ロブラール500アクア スミチオン水和剤40	1,500倍 1,000倍	67cc 100g	400L	月 日
7/13 ~17	黒星病、灰星病	アンビルフロアブル	1,000倍	100cc	400L	月 日
8月末 (収穫後)	シクイムシ類、ハマキムシ類、モモハモグリガ	スミチオン水和剤40	1,000倍	100g	400L	月 日

※降雨前に防除するとともに散布間隔は10日以上空かないように散布して下さい。

※ロブラール500アクア、アンビルフロアブルは収穫前日まで、スミチオン水和剤40は収穫3日前まで散布可能です。

※せん孔細菌病の被害が目立つ場合、袋掛け後～除・破袋前にICボルドー412(30倍)を散布して下さい。

※ハダニ類が発生した場合は、ダニサラバフロアブル(2,000倍、収穫前日まで)を散布して下さい。なお、殺ダニ剤散布前には園内の草刈りを実施して下さい。

※散布薬剤は、散布ムラがないようにていねいに十分量を散布して下さい。

※園外への飛散や他作物への飛散が無いように、注意して散布して下さい。

※農薬の使用前には必ずラベルを確認して下さい。

■ 3 着色管理

向こう1か月は平年並みに曇りや雨の日が多いと予想されています。着色が良く、高糖度の果実を生産するため、下記の対策を徹底しましょう。

(1) 支柱入れ・枝つり

果実の重みで垂れ下がっている枝は、適宜支柱入れや枝つりを行い、樹冠内部への光到達性を改善しましょう。支柱入れ・枝つりは、主枝・亜主枝の枝折れ防止にも有効です。

(2) 除・破袋

除・破袋は各品種の収穫 10～7 日前頃に行い、着色促進に努めて下さい。除・破袋が遅れると、果実が着色不良となる以外にも、果実の異常成熟やみつ症の発生を助長するので、作業遅れとならないよう注意してください。

(3) 反射マルチシート

樹冠下にタイベックシートなどの白色反射マルチシートを敷設すると、補光により果実の着色が促進され糖度の上昇も期待できます。特に、「あかつき」等の早生品種は成熟期が梅雨期と重なる場合が多いので、積極的に敷設しましょう。

■ 4 新梢管理

主枝・亜主枝の背面および主枝の分岐部から発出している強勢な新梢は、切除または摘心し、樹冠内部へ薬剤や光が十分に届くようにして下さい。ただし、樹勢が弱い樹や樹勢が落ち着いた成木では、過度な新梢の切除は更なる樹勢の低下を招くことから、必要最小限の実施に留めましょう。

また、新梢を基部からきれいに切除すると側枝の禿げあがりにつながりますので、①副梢がある場合は基部側の長めの副梢 2～3 本を残して切除（摘心）（写真 1）、②副梢が無い場合は基部数 cm 程度残して切除（ほぞ切り）するようにしましょう。



写真 1 長めの副梢を 2～3 本残して徒長枝を切除（摘心）

お問い合わせ：富山県高岡農林振興センター園芸振興班 担当 濱谷 TEL26-8474